

アジア地域ビジネス論B		講義	教授 大西 一成
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	23200202

1. 授業のねらい・概要

アジア地域ビジネスにおける先端的な動きについて、具体的な事例を用いながら体系的かつ理論的に学ぶことをねらいとする。また課題となっているアジア地域の経済活動における生産性、直接投資、為替等に関する経済理論を学ぶとともに、日本だけでなく欧米とアジアの関係についても取り上げる。特に今日におけるアジア地域ビジネスの大きな背景ともなっている各国の産業政策についても取り上げる。

2. 授業の進め方

テーマにとって必要な経済理論については、適宜紹介し解説する。板書及び OA 機器を用いながら、自筆ノートの作成を目指す。ミニッツ・ペーパーを用いて、質問を募り次の授業の冒頭において対応する。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の進め方とテーマの概説）	9. 米国とアジア地域ビジネス（情報産業を中心に）
2. アジア諸国間の産業構造の変化と新興国の動き	10. 欧州とアジア地域ビジネス（EV を中心に）
3. アジアにみる産業内貿易、フラグメンテーション	11. 中国とアジア地域ビジネス（生産移転を中心に）
4. 企業の国際化要因と理論的背景	12. 欧米企業の中国ビジネスにおける新たな展開
5. アジアにおける国際分業とサプライチェーン	13. 産業政策①（サプライチェーン問題を中心に）
6. 日本企業の生産性とアジア貿易	14. 産業政策②（中間財・資源を中心に）
7. 日本企業の直接投資動向と生産性における理論	15. アジア地域におけるビジネスの新たな動きについて
8. 為替・インフレーションとアジア地域ビジネス	整理、総括する。

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

アジアを中心とした国際経済に関心のある受講者は、予習として参考文献はもとより経済専門紙を中心に日々1～2 時間程度目を通すことが求められる。講義の復習は理論を中心に、概ね 2 時間程度は必要であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、解説とともに返却したい。宿題については、授業冒頭で解説する。質問を募るミニッツ・ペーパーも適宜準備すると共に重視する。

6. 授業における学修の到達目標

アジアにおけるビジネス活動がどのような考え方、理論に基づいて行われているかを学修し、ビジネスの経済学的な基本を身に着けることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出（10%）、レポート（20%）、期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、特に限定しない。授業において適宜、論文、資料、データ等を配布する。参考文献は、藤田昌久・若杉隆平[編著]（2011）『グローバル化と国際経済戦略』（日本評論社、4600 円+税）、法政大学比較経済研究所/田村明子【編】『国際競争力を高める企業の直接投資戦略と貿易』（日本評論社、4000 円+税）。

9. 受講上の留意事項

2 年次前期の「アジア地域ビジネス論 A」（前期）については受講済みであることが望ましい。また、1 年次後期の「日本とアジアの経済」、同じく 1 年次の「グローバル化と国際社会 A・B」を履修しておくことが望ましい。今日のアジア地

域ビジネスの動きについては、経済専門紙を日々講読することも重要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。